

昔の夕餉

能村 研三

古参同人の計

「沖」の古参同人である河口仁志さんが6月3日に、千田敬さんが7月11日に相次いで亡くなられた。

河口仁志さんは、昭和45年「沖」創刊号88名の投句者のお一人で、「沖」の前身の「森の会」に所属されていた。その頃先師登四郎は「沖」創刊をやや躊躇していたのだが、当時若手であった河口さんは田中茶能行さんとともに、登四郎を後押しし熱く創刊を迫ったのである。以来、河口さんは「沖」になくてはならない方となった。

創刊後まもなく「沖」に入会した私に対しても、兄貴分として多岐にわたりご指導を頂いた。当時八幡神社の公民館で行われていた沖の句会で、河口さんは私に句会の点盛りの仕事を教えて下さった。披講者が入選句の上五を披講した瞬間に、その作者の名前へと手が動くよう指導された。つまり作者とその日に出された句を即座に覚えて、手が動くようにしておきなさいということだったのだ。鎌ヶ谷にお住まいで、今の東葛支部の前身である松戸支部を立ち上げられたのも河口さんである。お

面 舵 の 傾 ぎ 少 年 の 声 は 夏
梅 雨 休 み し て は な ら じ と 万 歩 計
水 打 つ て 最 大 公 約 数 的 幸
滾 つ 瀬 の ぎ り ぎ り の 際 蛸 ゐ る

深 々 と 壺 中 の 闇 へ 梅 漬 け る

青 梅 雨 の 風 邪 抜 け ぬ ま ま 北 へ 旅

蚊 遣 香 昔 の 夕 餉 早 か り し

昼 寝 覺 水 平 線 が 見 た く な る

逆 潮 の 河 口 の 綺 羅 や 夏 燕

モ ノ ク ロ の 色 の 復 元 蚊 遣 香

酒も好きで、句会の二次会ではお酒の飲み方も教えて下さった。

千田敬さんは、「沖」の名誉会長である千田百里さんの御夫君で、ご夫妻で長く俳句を続けてこられた。編集の仕事が専門であったので、沖の編集部でも専門的な視点で編集に携わっていただいた方である。

特に思い出すのは、「沖」の創刊45周年の記念に作られた、紺の表紙の『沖歳時記』である。出版元のふらんす堂へ私と二人で出かけたことも思い出される。また『能村登四郎全句集』を刊行する際も、中心となつて編集の仕事に関わっていただけに、大冊をまとめ上げることが出来た。もう一つ忘れられないのが15年前の東日本大震災の時のことで、私と敬さんは編集部の旅行で北海道を訪ねており、家族の安否を気遣いながら、この先どうやって帰還するかを先頭になって考えて下さった。

河口仁志さん、千田敬さんの「沖」へのこれまでのご尽力に心より感謝を申し上げ、安らかにお眠りになられることをお祈りする。

能村 研三